1896. 8. 31陸羽地震の岩手県
における被害に関する文献調査

LITERATURE SURVEY ON RIKUU
EARTHQUAKE OF AUGUST 31, 1896

水田敏彦 —— * 1 鏡味洋史 —— * 2

Toshihiko MIZUTA —— * 1 Hiroshi KAGAMI —— * 2

キーワード：
1896陸羽地震, 岩手県, 地震被害, 新聞記事

Keywords：
Rikuu earthquake of 1896, Iwate prefecture, Earthquake damage, Newspaper articles

Rikuu Earthquake of 1896 is the biggest inland earthquake of Tohoku district which occurred in the mountains between Akita and Iwate prefectures. The damage was concentrated at the mountainside and soft ground sites in the both prefectures. However, the damage in Iwate is not reported in details. In this study, damage of the Rikuu Earthquake in Iwate is surveyed mainly referring newspaper articles at that time. Detailed damage by each village and settlement is listed and distributions of them are discussed.

1. はじめに

1896 年（明治 29 年）陸羽地震は秋田・岩手県境の山間部に発生した東北地方最大の内地地震であり、真昼山地の秋田県側には千屋断層、岩手県側には川舟断層がそれぞれ出現した。また、被害は山間部の斜面崩壊と周辺の平地（堆積地盤上）で集中し、2004 年新潟県中越地震と類似の被害も多い。これらの過去の地震による被害状況やその分布について明らかにしておくことは地域の防災を考える上で重要である。この地震による被害は秋田県側が大きく特に被害の集中した町名をとり「六郷地震」とも呼ばれている。一方、岩手県側については日本被害地震総覧に、死者や倒壊家屋の記載がある程度で被害の詳細には触れられていない。本論では新聞記事を含む文献調査を進め、本地震による岩手県の被害を明らかにする。

2. 既往の調査報告文献

最初に既往の被害報告を整理する。
日本被害地震総覧¹⁾：宇佐美のカタログによると本地震の諸元は、発震時 1896 年 8 月 31 日 17 時 06 分、秋田・岩手県境、 $\lambda=140.7^{\circ}$ E、 $\phi=39.5^{\circ}$ N、 $M=7.2$ である。表 1 に示す郡別被害一覧が掲げられており、死者 209、負傷 779、住家の全壊 5792、半壊 3045 等となっている。
震災予防調査会報告第 11 号（1896）：震災予防調査会発足間もない時期の、被害地震で 1894 根室、1894 庄内、1896 三陸津波地震に次ぐ地震で直後に詳細な現地調査報告がなされている。巨智部²⁾の一般調査のほか、地質（山崎³⁾）、建築物被害（中村⁴⁾、曾根⁵⁾）の報告がある。家屋や人的被害の被害統計は、秋田県については市町村ごとの震災被害調査表が掲げられている。岩手県に関する記載は、曾根による「岩手秋田両県下震害家屋調査報告」⁵⁾のなかで花巻の建物被害記述がある。しかしながら、これ以外の被害記録は山崎による「地震の性質並に震域」³⁾のなかで建築物の損害が激甚であった地域の記述と県別の被害統計があるのみである。

表 1 1896 年陸羽地震における被害¹⁾

	郡市名	死	傷	家屋その他建物			
				焼失	全壊	半壊	破損
秋田県	仙北郡	184	603	30	4,444	1,820	7,233
	平鹿郡	18	111	1	1,019	690	6,707
	雄勝郡	1	21	1	179	296	3,415
	河辺郡				9	7	558
	南秋田郡				17	24	253
	由利郡				5	30	5,156
	山本郡	2			3	2	87
	北秋田郡				1		99
	秋田市		1		5	20	556
	計	205	736	32	5,682	2,889	24,064
	郡市名	死	傷	家屋のみ			小破
				全壊	半壊	大破	
岩手県	盛岡市						63
	南岩手郡			10	23	99	951
	北岩手郡						15
	紫波郡	1	1	5		17	213
	稗貫郡	1	4	44	31	377	328
	東和賀郡				8	15	675
	西和賀郡	2	38	51	94	212	293
	胆沢郡						26
	江刺郡						48
	西閉伊郡					2	1
県	南九戸郡					46	4
	二戸郡						8
	計	4	43	110	156	768	2,598

震災予防調査会報告第 77 号（1913）：今村⁶⁾は 14 年後に陸羽地震を再調査して震災予防調査会報告に報告している。本報告は、1. 緒言、2. 烈震区域、3. 震動の方向と断層線、4. 震原、5. 前震と副因、の 5 章よりなり多くの被害写真を掲げている。ここでは、被害に関する項目をまとめておく。

最初に、地震直後の報告として、山崎の千屋、川舟断層の発見を含む地質学的調査、巨智部の踏査報告、中村、曾根の建築学上の調査、中央気象台の池上の踏査報告、をあげている。烈震区域内の詳細な震度、被災状況、土地変動などの分布を探るため 1910（明治 43）年に現地調査を行った。『烈震区域は主として羽後仙北郡の東北部を中心

*1 秋田工業高等専門学校環境都市工学科 准教授・博士（工学）
（〒011-8511 秋田市飯島文京町1-1）

*2 北海道大学 名誉教授・工博

*1 Assoc. Prof., Akita National College of Technology, Dr. Eng.

*2 Prof. Emeritus, Hokkaido University, Dr. Eng.

とす之に平鹿及び雄勝両郡の小局部を加ふべく又陸中の西部なる和賀郡の一局部をも之に加ふべし而して被害の最も多かりしは仙北郡六郷町なりし』とし、現地では「六郷地震」と称していることを紹介している。

3. 新聞記事

地震発生の1896年当時の岩手県での新聞に1889年発刊の「巖手公報」がある。この新聞は翌1897年他紙を合併し岩手日報になり、今日に至り岩手県の代表的地方新聞になっている。岩手県立図書館所蔵のマイクロフィルムを閲覧複写し資料とした。地震に関する新聞記事は地震発生の翌々日の9月2日付紙面から表れる。1面の最初の記事は号外の再掲になっており、各地からの電報を報じている。紙面は2頁であり、1面の末尾に混乱により2頁にする旨の断り書きがなされている。その後6日までは毎日地震関連の記事が続くが、それ以降は毎日ではなくなり、記事の内容も山間部の被災地の探訪記事、地質学者の山崎直方の断層踏査の記事、温泉の変状などと変化し、10月上旬まで記事が断続的に継続する。地震に関する記述を順を追って見出しで示すと、以下ようになる。●印は大見出し、◎は小見出しを示す。『』は記事の引用を、《》内は記事の要約・説明を示す。

【9月2日】 1面：●大劇震各地電報《花巻・里川口：潰家地盤裂け水湧出、陸中山田町：『院内患者動揺したるも無事に済む市民狼狽して病院等に逃避今尚ほ雑踏中』、水沢：民家多少被害、宮古町：土蔵他破損、九戸大川目：家傾き壁破裂、釜石町：『海嘯来るとて家具持出し構火を焼き市中甚だ騒し』、黒沢尻町：山崩れ、宮古、南北九戸：土蔵破損、西東磐井：石垣破壊、盛岡市：降雨、監獄壁落、家屋壁破損、夜間警部巡視、久慈町：洪水、家屋浸水、鉄道：レール破損、上下止》●大劇震彙報《『海嘯の惨に接し中頃洪水の害に遇ひ今又劇震』、人心恟々、盛岡市：露宿、八幡社内避難者充さる、窃盗徘徊恐れ、家屋外壁落、各寺院墓石転倒、医師の繁忙一方ならず》●花巻警察署《鉛：山崩れ、湯止、台：湧止、八戸より隧道落つ、秋田県：『死傷は取調中なれども格別の事はなき』、福島県：異常なし、郡山：北上川渡し舟乗員生死不明、岩谷堂：土蔵破損、雫石村：潰家、寺院破損、土蔵全て破壊、黒澤川落橋、耕地亀裂》●村上参事官野崎技手《花巻町出張》●梅内医師《花巻町出張》●郡書記出張《南北巖手紫波郡書記雫石出張》●小崎警部の出張《雫石橋場方面出張、駒ヶ嶽内芹沢鳴動の噂》●宮城県《小破損》●沼宮内附近の震況《物壁欠裂、鉄道線路凹、道路亀裂》●安庭村震況《潰家、道路破壊、繫村温泉一時湯止、大根拔出》●雫石附近の震況別報《家屋潰、塀転倒、殆ど全部井水河水暗黒色、戸外仮住居、火災注意、黒沢川架設橋梁墜落、橋場に通ずる山中大木巨石路上転落》●汽車平常に復す《本日平常》●お断り『本日は余儀なくも二ページ丈の本紙を発行』

【9月3日】 3面：●各地震災彙報《湯田村：山崩壊、西山村並に滝沢村附近：巖石墜落、人馬全く歩行叶はず、城川橋墜落、家屋破損、郡山：建造物傾斜、道路亀裂、舟転覆1名行方不明、巻堀村：道路亀裂、家屋土蔵壁落、洪民村：土蔵壁落、煙筒破壊、大更村：土蔵壁落、煙筒破壊、大更村：土蔵壁落、田頭村：土蔵壁落、家屋壁落、西和賀郡：家屋崩壊、死者、川尻橋破損、花巻町：家屋倉庫破壊、道路亀裂、泥水混々と噴出》●黒沢尻短信《土蔵亀裂、道路亀裂》◎地震《安政三年大地震より四十一年目》

【9月4日】 1面：●山崎理学士の震災談●劇震当日に於る釜石の

騒擾《山崩壊、石応寺上壁落下、土蔵壁落、『再度の海嘯襲来すべしと其の騒擾も一方ならず』》●地震の為に蕎麦屋の損害●一昨日来《余震説明》●市内各小学校《一日臨時休課、二日午前十時迄授業、三日平常授業》●二十六夜●釜石通信《高处に逃げ出す杯恟々たる有様、海嘯の再襲と思ひ山辺に奔逸する者多、大橋村小丘破壊亀裂個所多》【9月5日】 3面：●南巖手郡御明神村震災被害表●西和賀郡湯田沢内震災実況《家屋全潰、小屋倒潰無数、即死三名、地盤亀裂、山崩、河水濁れ、三戸焼失、平和街道不通》●磐温泉付近の震災実況《湧出量変化、井水白色、地盤亀裂》●劇震当日の鉛温泉実況《浴客一同狼狽花巻指して逃げ延びたる、山の道路欠裂》●磐井通信《土蔵壁破損、酒溢流、道路亀裂、盛岡間鉄道線路所々破損一時汽車不通5日開通、黒沢尻土蔵満足稀》

【9月6日】 3面：●陸羽地方の各鉱山《三井鉱山危難を免かる》●西和賀郡震災続報《川尻警察署壁落、沢内村：家屋全潰、死者1、湯田村越中畑野々宿：家屋全潰、『平和街道筋労働し居たる工夫は岩石崩壊の為に一名死亡』、湯田村湯本及び湯川：湧口止》●恐るべき溜水《山諸共杉松木崩れ堤防》●御所村附近震災実況《泥水湧出、家屋倒壊、地にり、十間許り其儘突出、山崩れ》●地震の為に負傷す

【9月8日】 3面：●平和街道筋の破壊に就て《川尻より黒沢尻町崩壊の箇所多》●平和街道の通行に就て《不通箇所は土場より大石の間》●大槌通信《土蔵亀裂》 4面（広告）：陸中志戸平温泉御案内『湧出せざるやの風評も有之候処幸に当浴場は些少の災害なく道路も安然』広告《当台各温泉：温泉湧出、台温泉網張温泉：無事》

【9月9日】 2面：●警部長《黒沢尻と花巻出張》●山崎理学士一行《御明神村橋場視察等の状況》●秋田県の震害《死者280、負傷538、倒屋5418戸》●湯田沢内両村人畜死傷数●巨智部博士地震談『陸羽地震の中心点が秋田県六郷及び巖手県花巻に在る』●南巖手郡震災被害続報 4面（広告）《各温泉無事》

【9月10日】 3面：●地震後の心得●西山村の震災彙報《戸外仮小屋、産室の様子》 4面（広告）《各温泉無事》

【9月12日】 2面：●盛岡鉱山監督署長《技師移動中震災遭遇》●尾形警部の震災復命書《平和街道、避難所、赤十字の状況と西和賀郡の建物被害数》

【9月12日】 3面：●管内震災詳報《平和街道：附近の山々崩壊、土石道路の填塞、通行停止、土砂道路に堆く、樹木転倒通行不可、湯沢村川尻：家屋大破、大渡：『山脈は概ね三四百間の間各所崩壊し或は巖石の突飛せるあり』、野々宿：家屋全壊、山崩壊し泥水湧出水田損害》

【9月13日】 2面：●秋田震災《死者202、負傷者584、全潰家屋4017》●管内震災詳報《全壊、半壊、負傷者数等湯田村、沢内村の被害詳細》●震災談《湯田村、沢内村の用水路、道路の被害》 3面：●断層線発見『西和賀郡若畑川舟に於て断層線を発見』●沢内の雪囲《傾斜家屋降雨のため倒壊注意》

【9月15日】 2面：●震災談《中山街道：『山の半腹を切り抜きし道故平和街道よりは害少し』》●本県管内震災詳報《沢内村被害詳細》 3面：●西和賀郡沢内通信《余震や避難の状況、沢内村：書記官一行・警部・山崎理学士・中央气象台技師・郡吏調査》

【9月16日】 2面：●両陛下より秋田県震災民へ御救恤金下賜●本県管内震災詳報《沢内村川舟：家屋全壊、『山も亦裂けて断層体をなしたる』、『裂開線の中央に当りたる為め家屋は半ば五尺位地面と共に高まり』》

【9月19日】 2面：●秋田県の震災被害統計《仙北，平鹿，雄勝郡被害統計》 3面：●稗貫東西和賀震災被害表

【9月27日】 3面：●断層発見の再報『今回の大震に付岩手秋田両県界に峙立する山脈の両側に二條の断層を生じたる』

【9月30日】 2面：●山崎理学士《盛岡尋常中学校において講演》 ●地震を前知するの法に付き古来の実験 ●昨日の地震《余震の報告》

【10月2日】 2面：●繋温泉の変状《湧出量変化》

4. 被害のまとめ

4.1 時代背景

既往の地震：陸羽地震発生の2ヶ月前の1896年6月15日には明治三陸地震津波が発生し岩手県沿岸部では甚大な被害を受け復興の最中で発生し、沿岸部町村では再度の地震の発生が大きく捉えられている。

町村制：1888年（明治21年）に町村制が制定され旧来の集落単位の村を集め新しい町村が設けられた。1896年は町村制発足より日が浅く、例えば岩手県稗貫郡花巻川口村は旧来の名称『里川口』が、同紫波郡日詰町は『郡山』が用いられている。地震の翌年の1897年には南北に分れていた岩手郡と東西に分れていた和賀郡が合併し、現在に至っている。

鉄道：地震発生の1896年当時、現在の東北本線は私鉄の日本鉄道として上野～青森間が1891年に全通し、奥羽本線側は青森から国鉄奥羽北線として建設が進められ、1894年に弘前まで、1895年に碓ヶ関まで開通していた。福島方は1899年に福島～米沢間が開通した。地震発生当時の鉄道は青森を経て弘前、碓ヶ関までであり、秋田県には達していなかった。

道路：秋田へのルートは黒沢尻（現北上市）から横手に抜ける平和街道と盛岡から角館に抜ける秋田街道があった。平和街道は秋田県平鹿郡と岩手県和賀郡を結ぶことから、『ひらわ』街道と呼ばれ、現在は『へいわ』街道となっている。岩手県側は和賀川に沿い途中の仙人峠で川の狭窄部を避け山越えをしていた。1880年から新道開削が始まり、地震当時は新道が利用できたが、地震による山崩れにより大きな被害を受け旧道の仙人峠が利用されている。1965年湯田ダムが建設され錦秋湖の出現により当時の道路、集落が消滅している。秋田街道は岩手県雫石村橋場から秋田県生保内村の間に仙岩峠（仙北郡と岩手郡）があり、急峻な峠越えになっていた。

4.2 家屋および人的被害

1896年陸羽地震における岩手県内の被害は日本被害地震総覧¹⁾に郡市別に掲載されているが、巖手公報の記事には詳細な被害報告があり表2にまとめて示す。被害が大きい稗貫郡、東和賀郡、西和賀郡において、町村別の被害統計が記されている。死者と負傷者はほぼ同数、家屋の全壊は1.9倍、半壊は1.5倍、大破は1.8倍程度大きくなっている。人的被害の原因について、被害地震総覧には触れられていないが、新聞記事には状況が記されている。死者は、沢内村太田女性圧死1、表2の統計と数は異なるが湯田村において圧死3、湯田村平和街道筋において岩石崩壊工夫1名死亡、そのほか紫波郡古館村では船転覆行方不明1と記されている。

盛岡市内の被害は、被害地震総覧では記載されていないが、雨にも拘らず露宿多く、県社・八幡社・内丸公園は一面に避難者、家屋・土蔵・倉庫・監獄の壁崩落のほか、墓石の転倒、道路や明治橋の亀裂を報じている。火災は湯田村で3ヵ所火災が発生し3戸焼失、御所村で

は倒壊家屋より失火したことが記されている。被害を受けた範囲は広く、震央から100km程度離れた釜石町でも石応寺の壁崩落、土地や土蔵の亀裂のほか、山崩れも発生したことが記されている。また、2ヶ月前の明治三陸地震津波の経験によって不安をかき立てられ、午後7時の時鐘に惑わされて『狼狽の極町民は右往左往に逃げ迷ひ』町民は『又もや海嘯或は地震の襲来かと恐怖の余り戸板を并べ或は蓆を敷き戸々の前に丸飯を用意し夜を徹したり』と記されている。

表2 稗貫郡、東和賀郡、西和賀郡被害一覧

新聞記事（9月15日郡衙調）						被害地震総覧			
郡名	町村名	死 傷	全壊 家 蔵	半壊 家 蔵	大破 家 蔵	死 傷	家屋のみ		
							全壊	半壊	大破
稗貫	花巻町		38	22 2	34 28	1 1	44	31	377
	里川口	1	8 1	1	109 78				
	矢沢村		1		14				
	八幡村				2				
	湯本村		13 6	18 12	299 28				
	太田村		3 1	13	47 5				
	湯口村	1	3 1	10 1	25 2				
	計	1 1	65 10	60 15	516 155				
	東和賀	黒沢尻							
鬼柳村					1 12				
岩崎村			3	34 5	105				
横川村					1				
藤根村					285 10				
笹間村			4 2	4 10	9 29				
飯豊村		1	1	1	8				
計		1	8 2	39 15	400 62				
西和賀	沢内村	1 15	66 1	61 1	64 8	2 38	51	94	212
	湯田村	1 16	43 2	42 1	82 1				
	計	2 31	109 3	103 2	146 9				
	総計	3 33	家 182 蔵 15	家 202 蔵 32	家 1062 蔵 226				

4.3 被害分布

以上の被害の内容を旧市町村別に整理し表3に示す。宇佐美の「歴史地震のための震度表」⁷⁾を参考に各地の震度を推定し右欄に示している。図1は表3によって求められた震度分布図である。なお、被害の集中した雫石村、御所村、御明神村、西山村、湯口村、湯田村、沢内村は村境界を細線で表し、集落ごとの震度分布を示している。地震被害総覧では全壊率1%の範囲は和賀郡の西側と花巻町、雫石町に限られているが、雫石から花巻を結ぶ線より西側地域の多くは震度5+で、湯田村の越中畑と沢内村太田では震度6となっている。

4.4 調査・救援・ライフライン被害

地震の発生は午後5時6分と夕方であったが、発災直後より調査・救援のための活動が行われ、警察は被災地に警部、巡査を派遣し、火災や混乱防止のため巡回している。南北巖手と紫波郡の書記3人は雫石に出発し、赤十字では医師を人命救助のため花巻町へ派遣、湯田村に出張所を仮設している。鉄道については、盛岡～日詰間でレールが曲がり、三戸～尻内間の隧道壊崩、水沢～盛岡間線路の破損等によって震災当日は上下とも不通となったが、緊急工事の結果2日後に全通している。道路については平和街道筋の被害が多く、9月6日の記事に『湯沢村最も激しく岩石処々に崩壊し復旧には多額の費用と労力を要する』と記されている。8日の記事には川尻より下村までは崩壊の箇所多く不通当分旧道を往復、人馬不通の箇所は土場より大石の間、広い範囲岩石崩壊、13日においても『下村より大石まで五里の間山岳崩壊して土石填充』と記されている。秋田街道は黒沢川落橋、橋場へ通じる山中で巨石や大木の転落のため不通となったが9月9日の記事に『二三ヶ所の大破を生じあれども通行には差支なし』と記されている。

表3 市町村集落別被害のまとめ

郡	旧市町村	集落	記事	震度	現市町村
岩手郡	旧宮内町		鉄道線路凹4, 道路亀裂2	5	岩手町
	大更村		土蔵壁落1 亀裂1	5	八幡平市
	田頭村		土蔵壁落1 亀裂1, 住家壁落10	5	
	滝沢村	姥屋敷	石碑転倒, 家屋土蔵亀裂, 人畜死傷なし	5	滝沢村
	雫石村		漬家6 壁傾斜13 破損多数, 土蔵破壊悉皆, 寺院破損3, 人畜死傷なし, 落橋1, 耕池亀裂, 山崩れ雫石川堰止め	5+	雫石町
	御所村		人畜死傷なし, 救助法を講じ組織代を召集, 炊き出し		
		元御所	役場附近被害大, 泥水噴出, 土蔵傾斜多	5+	
		旗田	家屋倒壊1 傾斜多, 地盤亀裂	5+	
		戸沢	家屋倒壊1 傾斜多	5+	
		安庭	漬家1 破損数戸, 道路亀裂	5+	
		西安庭	倒壊家屋より失火・消火, 小破損多	5+	
		南畑	家屋破損	5+	
		升沢	地・山崩	5+	
		矢櫃	山崩数箇所	5+	
		三戸川	水路破損, 応急工事	5+	
御明神村	御明神		繁温泉※一時湧出停止, 湧出量変化		
			家屋半潰10 破損72, 土蔵半潰1 破損21, 建物被害138, 学校破損1, 神社破損2, 井水濁水3, 道路亀裂70 破損15, 橋梁破損10 墜落1, 土地陥落23, 崖崩壊175 坪, 無被害建物87, 神社2	5+	
		上野	家屋全潰3 半潰6 破損91, 土蔵全潰2 半潰4 破損41, 橋梁墜落17, 井戸5, 道路亀裂無数	5+	
		橋場	家屋大破8 小破9, 土蔵破損6, 橋梁墜落1 破損2, 神社破損1, 土地陥落	5+	
		山津田	崖崩1, 無被害建物7	5	
		仙岩峠	道路欠損12, 川側崩18	5+	
		小柳沢	大木倒, 山崩	5+	
		国見温泉	通行危険, 番人引揚げ	5+	
		志度前	砥石山決壊	5+	
		春木場	酒蔵倒潰	5+	
西山村	長山		専常小学校運動場亀裂		
			家屋破損15, 土蔵破損15, 学校破損1, 橋梁破損1, 墜落3,	5+	
		上長山	家屋破損6, 土蔵破損11, 非住家破損3, 地盤亀裂	5+	
		蟹沢川	道路亀裂10, 苗代陥没	5+	
		小松	道路亀裂1, 土樋破損	5	
		葉山	田亀裂	5	
		岩井花	畦道亀裂3, 橋梁破損, 家屋土蔵亀裂多	5+	
		西根桜	家屋傾斜1, 破損3, 土蔵半潰1, 破損15	5+	
		葛根田	道路亀裂5	5+	
		谷地	道路亀裂3, 田陥没	5+	
盛岡市	盛岡市		松山沢 田崩1 丁歩	5+	
			内館沢 田崩1 丁歩	5+	
			滝ノ沢 田崩1 丁歩 反	5+	
			深沢 田崩3 反歩	5+	
			湯ノ沢 田崩5 畝	5+	
			大沢温泉 落石, 120 余滞留客80 余名引揚, 温泉異常なし, 城川橋梁落, 温泉場附近家屋転倒破損多	5+	
			網張温泉 被害なし, 温泉営業室内	4	
			露宿多・県社・八幡社・内丸公園, 監獄墜落, 倉庫家屋壁崩, 寺院墓石転倒, 明治橋亀裂, 蕎麦屋の損害, ランプ禁止網張提灯, 小学校休校1・2日, 3日10時まで, 4日より平常	4	
		仙北町	最も激しい揺れ, 土蔵全潰1 壁落7 亀裂多, 板倒れ1	4	
		新田町	激しい揺れ	4	
紫波郡	紫波町	川原町	土蔵2	4	
		大清水	道路亀裂	4	
		新穀町	井戸石垣崩, 家屋傾斜多少	4	
		巻場村	道路亀裂2, 家屋土蔵壁落7	4	
		浪民村	土蔵壁落6 亀裂7, 野石所壁落, 煙突折損2	4	
		日詰町	(郡山)	4	
		古館村	下町	4	
		花巻町		5+	花巻市
			渡船場, 渡船転覆20 名避難1 名不明	5+	
		花巻川口町		5+	
神貫郡	花巻市		家屋全潰38 半潰22 大破34, 土蔵半潰2 大破28, 負傷3, 噴水, 道路亀裂数10, 専常小学校破損, 寺院破損2, 鷹傷, 炊出し	5+	
		龍町	町内の最低所, 泥水噴出, 浸水3 尺	5	
		一日市町	噴水なし, 漬家5, 6	5+	
		(里川口)	家屋全潰8 半潰1 大破109, 土蔵全潰1 大破78, 負傷1	5+	
		鍛冶町	家屋潰1 から出火, 亀裂多数, 商店被害多	5+	
		根古村	家屋半潰1 大破4 破損24	5	
		湯本村	家屋全潰13 半潰18 大破299, 土蔵全潰6 半潰12 大破28, 温泉被害なし営業中	5+	
		湯口村	家屋全潰3 半潰10 大破25, 土蔵半潰1 大破2, 死者1	5	
			大森山崩れ, 湧湯止まる, 人畜異常なし	5	
		宮野目村	家屋破損20	4	
和賀郡	北上市	太田村	家屋全潰3 半潰13 大破47, 土蔵全潰1 大破5	5+	
		矢沢村	土蔵全潰1 大破14	4	
		好地村	非住家大破3 小破24	4	
		新堀村	家屋半潰1 小破7	4	
		八幡村	家屋大破2	4	
		八重畑村	家屋小破9	4	
		大迫町	非住家半潰1	4	
		笹間村	家屋全潰4 半潰4 大破9, 土蔵全潰2 半潰10 大破29	5+	
		黒沢尻町	土蔵大破2, 亀裂1/4, 道路亀裂多	5	
		飯豊村	家屋全潰1 半潰1, 土蔵半潰1 大破8	5	
和賀郡	北上市	鬼柳村	家屋大破1, 土蔵大破12	5	
		横川目村	全潰8 半潰100 余, 土蔵大破1, 死3 負傷数10, 馬7	5+	
		岩崎村	家屋全潰3 半潰34 大破105, 土蔵半潰5	5+	
		藤根村	家屋大破285, 土蔵大破10	5+	

和賀郡	湯田村		家屋全潰43 半潰42 大破82, 土蔵全潰2 半潰1 大破1		西和賀町
		川尻	洋木造警察署破損, 土台外れ, 傾斜, 内壁落, 全戸数43 大破3, 赤十字出張所民家に仮設重傷者を収容	5	
		大渡	全戸3 大破2, 負傷女1	5	
		越中畑	全戸12 全潰6 大破, 出火1	6	
		中村	全戸6 潰2, 森林傾斜	5+	
		野々宿	全戸100 全潰1 大破7, 洋風郵便局土台外傾斜, 山地崩壊, 水田泥噴出	5	
		白木野	全戸20 大破1	5	
		柳沢	全戸10 全潰3 大破3	5+	
		杉名畑	負傷1		
		沢内村	家屋全潰66 半潰61 大破64, 土蔵全潰1 半潰1 大破8		
胆沢	水沢町	大野	半潰4 大破10	5	奥州市
		新町	全戸数92 全潰12 半潰2 大破14, 用水路破損	5+	
		前郷	家屋全潰1 半潰6 大破32, 土蔵大破4	5	
		太田	全戸95 全潰27 半潰9 大破13, 死者1 負傷男6 女7, 馬3, 玉泉寺菩提寺破損	6	
		猿橋	全戸165 全潰3 半潰7 大破8	5+	
		泉沢	用水路被害	5	
		川舟	全戸145 全潰12 半潰14 大破1, 負傷女1 男1	5+	
		大荒沢	全戸24 全半壊2 戸以外, 河水氾濫, 若畑に避難	5	
		若畑	道路被害, 田畑被害	5	
		岩谷堂村	郡役所壁落, 民家多少被害	4	
胆沢	水沢町		土蔵破損30, 人畜被害なし	4	

* 御所村繁温泉地区は分村し盛岡市に合併

図1 被害から求めた震度分布(点線は文献1による住家全壊率の範囲)

5. まとめ

本論では、1896 年陸羽地震について、当時の新聞記事を中心に岩手県の地震被害の文献調査を行った。日本地震被害総覧など既往の調査報告に記載されていない家屋および人的被害を整理し、被害の詳細や分布を明らかにすることができた。今後は秋田県側の被害の詳細についても明らかにしていきたい。

参考文献

- 1) 宇佐美龍夫：新編日本被害地震総覧，225-227，1996
- 2) 巨智部忠承：秋田県震災概査報告，震災予防調査会報告，11，75-83，1896
- 3) 山崎直方：陸羽地震調査概報，震災予防調査会報告，11，50-74，1896
- 4) 中村達太郎：陸羽震災地巡回報告，震災予防調査会報告，11，84-91，1896
- 5) 曾根達藏：岩手秋田両県下震害家屋調査報告，震災予防調査会報告，11，92-104，1896
- 6) 今村明恒：明治二十九年ノ陸羽地震，震災予防調査会報告，77，78-87，1913
- 7) 宇佐美龍夫：歴史地震事始，巻末付表第4表，1986

[2008年2月20日原稿受理 2008年5月1日採用決定]